

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース)  
県政の課題(テーマ)報告書

令和 6年 7月 23日

山梨県知事 殿

氏 名 水野 ひな  
留 学 先 イギリス  
オックスフォードブルックス大学  
留 学 期 間 令和 5年 9月 23日  
～ 令和 6年 7月 17日

1 県政の課題(テーマ)

グローバル人材の育成、多文化共生社会の実現

2 概要

県政の課題(テーマ)を解決に導く考え方及び対応策等

「山梨県教育振興基本計画」第5章によると、当県では外国人と日本人が共に生きる多文化共生社会の実現を目指すとともに、グローバル人材の育成を進めている。この目標達成のため、私は地域の異文化理解力を高めることが重要だと主張する。

(1)背景

グローバル人材とは、「豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神」を身に付けた人のことだ。このような人材が必要とされている主な背景は、全国のグローバル化である。図1に示されるように、山梨県でも外国人労働者数や日本語を母語としない子どもの数は増え続けており、これに対応するための施策が進められている。その一つが、「やまなし外国人活躍ビジョン」に示されている、日本人民側の外国人への理解を深めることだ。外国人と日本人が職場や地域で助け合うことのできる「多文化共生社会」をスムーズに実現するためには、様々な言語や文化に興味を持ち、積極的にあたたかく外国人と関わろうとする人々が増えることが重要である。

(2)課題と原因

「Japanese are kind of racist(日本人は少し人種差別的だと思う).」これは日本語を学んでいるイギリス人の学生から聞いた言葉だ。そして私自身もこの感覚に共感できるものがあり、多文化共生社会の実現に向けて克服すべき課題の一つは、日本人の外国人への態度や意識であると考えている。日本人は‘domestic’であると表現さ

れるように、外国人や多文化に抵抗を持つ人が多い。実際、在留外国人数は増え続けているにもかかわらず、令和5年度の「外国人との共生に関する意識調査（日本人対象）」によれば、「地域社会に外国人が増えることに対する感情（図2）」の項目で「好ましい」と答えた人はわずか28.7%である。さらに、「外国人が増加することについての考え（図3）」について、半数以上が言語・文化・習慣の違いによるトラブルを懸念したり、漠然とした不安を抱えたりしていることが分かる。このように、日本人の外国人流入に対する態度は決して好意的とは言えないのが現状である。

### 1) 学校教育における異文化理解力の育成

その原因の一つとして、教育現場で子どもたちの異文化理解力が十分に育成されていないのではないかという点が考えられる。異文化理解を端的に表すと、異なる言語や文化を知り、尊重し、受け入れることで、この力の育成は小中学校の英語科授業の1つの目標になっている。しかし、その能力は異文化間交流をたくさん経験することでしか洗練されないのではないかと、というのが私の意見である。例えば、教科書で日本と他国の文化の違いを知るだけでは、異文化を受け入れる難しさや、マイノリティの気持ちを想像することは難しい。実際、私自身も学校教育や大学の授業を通して異文化理解の大切さや原理を学んできた。しかし、留学中に異なる文化の中で人と関わり生活する経験を通して初めて、どのようなことが自分にとって受け入れがたいのかや誤解していた観念等に気づくことができた。よって、この点について改善を促すことが重要であると考えられる。

### 2) 日本人住民と外国人住民の交流機会

別の原因として、地域で異なる文化やルーツを持つ人同士の交流やかかわりが希薄であることが考えられる。同意識調査によれば、「外国人の知人はいないし、つきあったこともない」人が約40%を占めている。また、その理由は「付き合う場やきっかけがないから」が70%以上である(図4)。さらに、「山梨県在留外国人アンケート調査2022」は、外国人住民が暮らしやすい地域にするために、「外国人住民と日本人との交流機会の拡充」「日本人の異文化理解を深める」等を必要と感じている外国人が多くいることを示している(図5)。これらの結果から分かる通り、交流イベントの機会やそれに関する情報が、地域の日本人と外国人両者に十分に与えられていない可能性がある。特に、県内では小中学生向けの異文化交流のイベントは少なく、外国に繋がる人々と関わる経験をしたことのある子どもたちの数は少ないと予想される。

### (3) 解決策

上記のような課題の解決のため、地域での日本人と外国人の交流の活発化を提案する。留学先であるオックスフォード市は多国籍の学生や市民が集まる場所であり、留学生のための交流イベントが多く開催されている。私もそのようなイベントで様々な国出身の人々と出会い、話し、笑いあった。異なる文化を持つ人々との交流経験によ

って、様々な国出身の人と話すことに慣れ、自身の異文化理解に対する態度を内省したり、次に生かしたりしようとする姿勢を向上することができた。よって、異文化交流場を増やしていくことは日本のマナーや文化を知りたい外国人のためだけでなく、日本人の異文化に対する姿勢をポジティブなものに変えていくことができると考える。

また教育面では、学校で総合的な学習の時間や英語の時間を活用しながら、定期的に地域の外国人と子どもたちの交流機会を提供することができる。例えば、地域に住む外国人住民や日本語学校に通う児童生徒を対象にしたインタビュー活動やアンケート作成を行い、「やさしい日本語」で解決策を提案するなどの活動だ。交流とその振り返りを通して、相手のことに関する知識を得るとともに、自分が交流でできたこと、できなかったことにも気づくことができる。ただし、このような活動をうまく進めていくには、各学校と日本語学校や多文化共生センターとの連携が欠かせないだろう。

#### (4) 結論

以上のように、異文化理解力はグローバル人材に欠かせない能力の一種であり、地域での交流活性化や学校教育によって磨いていくことができる。そのような人材が地域で増えていけば、多くの外国人住民が山梨県を居心地の良い場所と感じ、共生社会の実現に一步近づくはずである。

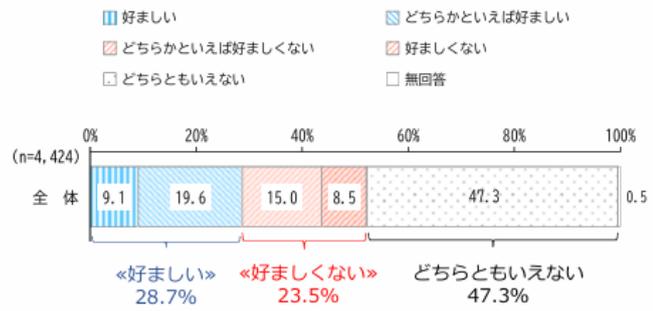
【図 1】



(注) 2021年以前は各年12月時点の数値だが、2022年は6月時点の数値。図2～6、8～10において同じ。

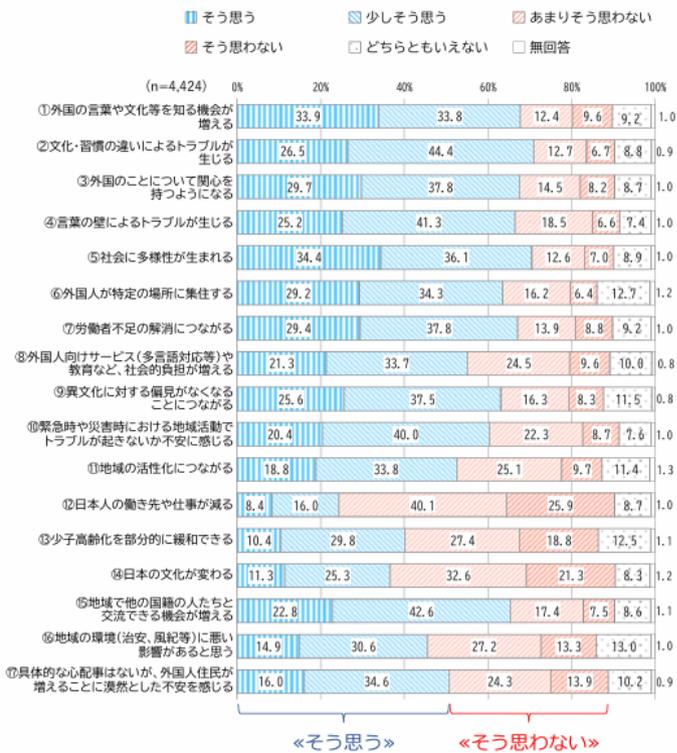
出典：法務省「在留外国人統計」、山梨県「常住人口調査」

【図2】 地域社会に外国人が増えることに対する感情

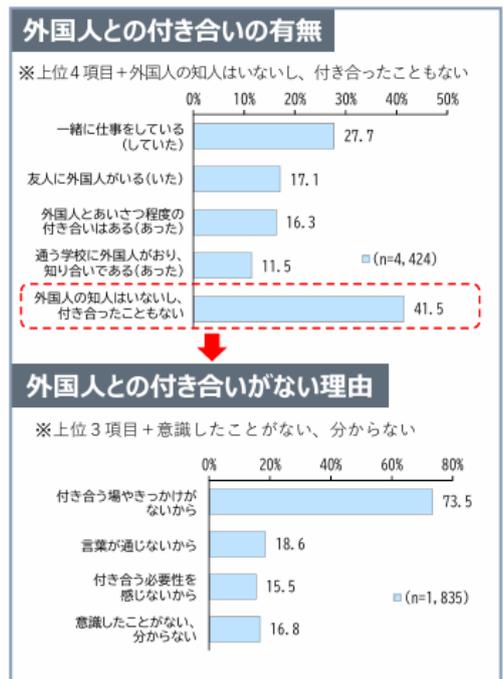


【図3】

外国人が増加することについての考え

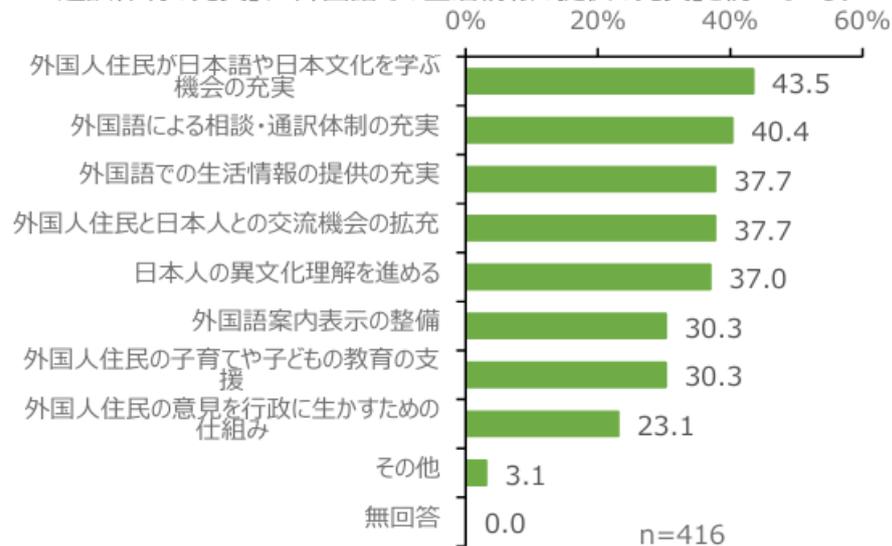


【図4】



【図 5】

Q26.外国人住民が暮らしやすい地域にするために必要なもの：「外国人住民が日本語や日本文化を学ぶ機会の充実」が最も多く、「外国語による相談・通訳体制の充実」、「外国語での生活情報の提供の充実」と続いている。



#### 参考・引用元

- ・【R3 改訂版】山梨県教育大綱(山梨県教育振興基本計画)

[https://www.pref.yamanashi.jp/documents/106528/kekagaiyou\\_2022.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/documents/106528/kekagaiyou_2022.pdf)

- ・やまなし外国人活躍ビジョン～外国人の皆さんにとって「第2のふるさと」となる県を目指して～

<https://www.pref.yamanashi.jp/documents/110370/gaikokujinkatsuyakuvision2023.pdf>

- ・外国人との共生に関する意識調査（日本人対象）

<https://www.moj.go.jp/isa/content/001416008.pdf>

- ・山梨県在留外国人アンケート調査 2022(概要版)

[https://www.pref.yamanashi.jp/documents/106528/kekagaiyou\\_2022.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/documents/106528/kekagaiyou_2022.pdf)